

## やせうま

それは、侍の力が強うなっち、天子様ん勢いが悪うなつたころんことじや。

京都ん御所ごしよ（天皇様がおるところ）じ育てられよつた藤原鶴清磨ふじわらのきよまろちゆうかわい

若君が、難なんをのがれ 「八瀬やせ」ちゆう乳母うはに連れられち豊後ん殿様を頼つち来た。

そこで、人目にふれんじ静かに住むがよかろうちゆうんで、黒野くろの（古野）ん御所ごしよ之森のもりに隠れ住むすることになつたんじや。  
\*御所之森||現古野下原

乳母ん八瀬やせは、京都ん大原八瀬というところの人じやといわれちよるが、事情があつち、名前を伏せ、その土地の名をとつち ただ八瀬とだけ呼ぶよぶことにしちよつたそうな。

この八瀬は、鶴清磨つるきよまろをそりやあ大事に育てたんじや。

八瀬は大変信仰心の深けえお方じやつた。

御所之森から三町ほど離れた所に、妙連寺みよつれんじちゆうお寺があつちの、

そこには、高さ一尺二寸の地蔵菩薩じぞうぼさつさま様が本尊ほんぞんとしち祭られちよる。

そん地藏菩薩様に、毎日毎日お参りに行き、鶴清磨君の無事むじ成長ちやうを祈りよつたんじや。

鶴清磨は、妙連寺の境内けいだいで毎日気嫌よう遊んだもんじや。

腹はらがへると、

「やせ、やせ、うまをくれ！」とせがんだ。

「はいはい、すぐにおいしいもんを作りましょう。」

と、小麦粉こむぎこなを練ねつち、長ながごうのばし湯ゆがくんじや。

そしち、きな粉きなこなをまぶしちから 鶴清磨にさしだした。

「やせ うまいのうー!」

といつも鶴清磨はぜーんぶたいらげた。

毎日毎日「やせ うまじゃ

うまじゃ」と鶴清磨んおやつ

をせがむ声がきこえたと。

いつんまにかそれが「やせう

ま」になったそうなの。

鶴清磨は、実に聡明な子であ

ったんで 村人ん崇敬を受

け

死後「御所大明神」として祀

られたちゆうことじゃ。

古野は盆の二十三日、妙連

寺の御施餓鬼るときにや茶

菓子としち

「やせうま」を一般にふるま

いよったんじゃ。

それじ、盆の時にや「やせう

ま」を作るんが習慣化してし

もうたちゆうことじゃ。



資料提供・・・古野老人クラブ

再話・・・挟間町歴史民俗資料館館長 二宮 修二

挟間町立図書館館長 山月 美江子

絵・・・一尾 和史